

インターバンクの声（2017年8月21日）

スペインのバルセロナで起きたテロ事件や白人至上主義団体と反対派の衝突を巡ってのトランプ米大統領の白人至上主義容認とも受け取られる発言によって米政権への先行き不安が増しており、週末の海外市場もリスク回避の動きが強いまだだった。

北朝鮮情勢の緊迫化によるリスク回避では、円が安全資産と見なされる度合いは低下しつつあるようだが、欧米市場発の材料によるリスク回避では、どうしても円買い・ドル売りが際立つ。

新たな円買い・ドル売り材料がなくてもテクニカル面で6/14や4/17に付けたドルの安値更新を目指すこと自体が動機づけになっている側面もあり、108円61銭までドル売りが進んだ際には下値不安が増していた。

ところが、スティーブン・バノン主席戦略官兼、大統領上級顧問解任の報道が伝わったことで、市場のリスク回避姿勢が和らぎ、ドル円も一旦109円台中盤に戻した。米国株も急回復する反応となったが、為替も株価もニューヨーク市場の終盤には再び下げており、バノン解任の市場への影響は今週の反応を見極める必要があるようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。